

「プラチナ企業」に認定 多様な働き方を実践

埼玉 セキュリティ

「男女がいよいよ働ける会社」――埼玉はセキリティ（所沢市、上園後）が「多様な働き方実践企業認定制度」の「プラチナ」企業に認定された。認定日は3月31日付。県内警備会社が同制度でプラチナ認定を受けたのはSPD（さいたま市）に続き2社目。

多様な働き方実践企業認定制度は、仕事と家庭の両立支援のためにテレワークや短時間勤務など多様な働き方を実践している企業を認定するもの。2012年にスタートし、今では3356社が認定を受けている（警備業は13社）。

認定基準は「男女が共に仕事と育児・介護を両立できる」など全9項目を満たすこと。認定項目のうち3つは「認定基準を満たしたことが評価された」。

同社には県から認定証と盾、ステッカーが交付。制度のシンボルマークを名刺やホームページに掲載できるなどPRできる。

（東京都港区、川邊浩史社長）は、同社ホームページから視聴できる子供向け動画「デジタル防犯教室」の無料配信を開始した。動画には同社オリジナルキャラクターのロックとキラチャが登場。2人が知らない人に声をかけられたら？などの質問を出す「ぼろんクイズ」を通じて、わかりやすく防犯知識が身につく内容だ。

同社は子供たちが楽しみながら防犯意識を芽生えさせることを目的に、地方自治体の施設や教育機関、商業施設などで「防犯教室」を開催してきた。コロナ感染対策を考慮してオンラインで視聴できる授業の提供を始めた。

製品紹介

高度な技術が安心感を生む

竹中エンジニアリング 自動通信機の機能搭載 多機能コントロールローラー



C-850BUS

竹中エンジニアリング 載、テナント物件などに対応した法人向け多機能セキリティコントロールローラー「C-850BUS」を販売開始した。

コントロールローラーは、音声通報だけでなくネットワーク回線を接続してメール通報にも対応する。通報先は、音声5か所、メール5か所まで設定可能だ。

警備の開始・解除は、FeliCa対応カードリーダーでも行うことができ、誰が警備開始・解除を行ったかを管理できる。

テナントの警備は、最大5専用部または4専用部+1共用部までの運用が可能。1テナント用のカードリーダー「FC-151」と、多テナント用のカードリーダー「TS-SC64C」を最大10台まで接続することができる。

センサーには有線センサー8回路、専用バスネットワーク30台を接続することができ、センサーごとに防犯、非常、火災、ガス、緊急、接続異常の設定が可能だ。動作履歴を最大120件までメモリー表示する。

▽問い合わせ先 竹中エンジニアリング 075-1591172

東京2020組織委 熱中症対策 最新ベスト



暑さ対策を考慮した高視認性ベスト（東京2020組織委提供）

東京2020組織委員会は、駅・会場周りや会場周辺の交通誘導警備業務を担当する警備員が着用することを目的に、暑さ対策を考慮した最新の「高視認性ベスト」を採用した。

従来の高視認性ベストは生地が厚く、真夏の炎天下では汗がこもる等の課題があり熱中症の危険性が危惧されていた。今回採用されたベストは、通気性が確保されているメッシュ素材を使用しながら高視認性の規格（JIS T 812）をクリアしている。

東京2020組織委による調査は入札で実施され、中央史料（練馬区）、古谷文彦社長が落札した。古谷社長は「現場で汗をかき警備員の方々に、事故防止と熱中症対策は重要な課題。東京2020大会のレガシーの一つとなれはうれしいです」と語った。

岐阜 セキュリティ

X線検査装置を「ふじの」に寄贈

旧式で使い勝手が悪いため寄贈を決めた。幾田会長は「警備員教育に活用して一層のスキルアップを図ってほしい」と話している。

前島センター長は「最新型の検査装置はさまざまな研修で役立つので、非常にありがたい」と謝意を述べた。

○：センター本館の玄関横には同社が2014年9月に寄贈した「さざれ石」が置かれている。今回、さざれ石について説明する石碑を新たに設置した。

さざれ石は、石灰石が長い年月の間に雨水で溶解し、その際生じた粘着力の強い乳産と幾田会長が記した木製の塊となったものだ。「さざれ石は団結と繁栄、平和と換えられた」。



左から幾田社長、幾田会長、前島センター長、全警協・小澤祥一朗総務部次長（全警協提供、下も）



寄贈されたX線荷物検査装置

警備業ヒューマン・インタビュアー

TOP interview いんたびゅー 水野 克彦さん (NWS 代表取締役社長)



△「プール監視業務を行っています」

本社を置く和歌山県白浜町に「プール監視は警備業務」であることを伝え、2016年に「白浜町民プール」の監視業務を受注しました。

すぐに「警備のプロ」の目線から、運営や設備について提案しました。監視台の設置を要請し4人体制で見守っています。30分に1回、必ずプールから全員あがって水底に異物がないかを確認を行うことで、お客さまの注意喚起を図ります。

しかしどんなに注意しても事故の危険はゼロにはなりません。子供は声をあげたり音を出したりすることなく突然溺れるので注意が必要で、特に幼児は、両腕に浮き輪を付け顔だけ沈み込み溺れしてしまうケースが起りやすいです。

△「プロファイル」(みずの・かをNWSに変更、代表取締役社長) 1972年9月生まれ、48歳。大阪市出身。関西大卒業後、紀陽銀行勤務を経て97年、南紀ワイルド警備保障(現NWS)入社、専務取締役。2014年7月社長

をNWSに変更、代表取締役社長就任。施設・雑踏・交通誘導警備業務1級、貴重品運搬・核燃料物質等危険物運搬警備2級、セキリティ・コンサルタント、サーフライフセーバー等の資格を所持。

△「プールから海水浴場へ」

白浜町にプール監視業務を評価していただき、安全面での人員確保に向けて地元でもライフセーバーを育てようというところから依頼を受けました。18年から近畿有数の海水浴場「白良浜」で、ライフセーバー活動を行っています。白良浜には毎年、白浜町が委託した日本ライフセービング協会(JLS)

△「水難防止」

△「業務の幅が広がりますね」

「なんでもできるのが警備員」が当社のモットーです。私は警備業で培ったノウハウを活かしてお客さまのさまざまな依頼に応え、業務の幅を広げました。社員にも同様に、従来の警備業の枠にとらわれない柔軟な発想を取り組みを期待しています。

「南紀白浜空港」の空港警備業務と空港消防業務を8年から続けており、担当してから空港の事故は発生していません。有事に備えて定期的に火災を想定した放水訓練や、白浜消防署との合同訓練を行っています。

私の親戚は米国テキサス州ダラスでセキリティ機器を開発・販売する会社に勤務しており、その縁から01年、米国の機械警備のノウハウを学ぶことができました。その翌年には、ネバダ州で空港施設を標的としたテロ対策の研究も受託しました。

新しい価値観や基準をお客さまに提案・提供することが、警備業の可能性を広げ、警備員の社会的地位を高めることにつながると確信しています。

聞き手・瀬戸雅彦

△「NWS」

●創業：1978(昭和53)年3月 ●代表取締役社長：水野克彦 ●本社：和歌山県西牟婁郡白浜町2667-1 ●業務：1号警備、2号警備、セキリティ機器販売、防犯コンサルティング ●社員数：108人

わが家は「全日警」で“安心生活”

全日警のホームセキュリティ
HAPPY GUARD

あたりまえのようにそばにいて、大切な人の笑顔を守ります。家の安心も、街の安全も私たちに
お任せください。

詳しくはホームページをご覧ください。

ハッピーガード

www.zennikkei.co.jp/hs/

お問い合わせ先
0120-87-7575
東京都中央区日本橋浜町 1-1-12